

米国巡回展「Kimono Refashioned」開催のお知らせ

【展覧会概要】

このたび京都服飾文化研究財団（KCI）は、米国巡回展「**Kimono Refashioned**」を開催する運びとなりました。きものがファッションに与えた影響を考察する本展は、この秋より、ニューアーク美術館（2018年10月13日-2019年1月6日）、サンフランシスコ・アジア美術館（2019年2月8日-5月5日）、シンシナティ美術館（2019年6月28日-9月15日）の3館を巡回します。

西欧の衣服と大きな違いをみせるきものは、19世紀後期以降、西欧のファッションに見逃せない影響を与えてきました。きものの文様や形への興味に始まり、現代服が誕生する1920年代になると平面的な構造や直線的な裁断が西欧服の現代化へのヒントとなりました。きものは衣服デザインの新しい可能性を開き、現代服の基礎をつくることに貢献したのです。

21世紀、加速する情報化社会と市場経済のグローバル化の一方で、伝統文化へのまなざしに変化がみられます。そのひとつが、きものへのあらたな視線です。きものに西欧が目を向けた19世紀後半、日本では洋装化が始まっていました。第二次大戦後にはきものは日常の服ではなくなりますが、きもの文化の伝統は生き続けました。世界に類を見ないきものの優れた染織技術やモチーフ、その独特の着こなし方は、現代の目で見るときも、様々なアイディアに満ちており、現代ファッションのなかに息づいています。あるいは、使い古されるまで着られたきもの・ぼろには、サステイナビリティという視点から新鮮な眼差しが向けられます。

KCIは、「モードのジャポニスム」展(1994年 京都国立近代美術館、他、7館巡回)でファッションにおけるジャポニスム研究に先鞭をつけ、「Future Beauty」展(2010年 バービカン・アート・ギャラリー、他、7館巡回)で、20世紀後期以降に革新的な日本人デザイナーが果たした役割を再確認する作業をしました。彼らの仕事は、ファッションが欧米の覇権下から羽ばたくことを告げるものだったと言えます。

「**Kimono Refashioned**」展は、それらを踏まえて、きものが現代のファッションを刺激し、新たな創造を促している点に焦点を当てる展覧会です。19世紀半ば以降の、きものに影響を受けた作品を先導役として、現代デザイナーたちが染織技法、形、着こなし方など様々な角度からきものにヒントを得ている作品を取り上げます。KCIの衣装コレクションを中心に、米国の美術館が所蔵するジャポニスム期のきものが登場する絵画作品の他、きものや浮世絵などを展示します。それは世界に愛されるきものへのあらたな関心を引き起こすと同時に、現代ファッションの方向性を先見するものとなるでしょう。

【開催概要】

題名：Kimono Refashioned

監修：深井晃子（京都服飾文化研究財団 名誉キュレーター）

キュレーター：新居理絵（京都服飾文化研究財団 キュレーター）

各館担当キュレーター：キャサリン・アン・ポール（ニューアーク美術館 キュレーター）、
森嶋由紀（サンフランシスコ・アジア美術館 アシスタント・キュレーター）、
カリン・G・オーウェン（サンフランシスコ・アジア美術館 アシスタント・キュレーター）、
シンシア・アムネウス（シンシナティ美術館 チーフ・キュレーター）

企画：サンフランシスコ・アジア美術館、公益財団法人京都服飾文化研究財団

協賛：株式会社米国ワコール（予定）

ニュージャージー会場：

会期：2018年10月13日-2019年1月6日

会場：ニューアーク美術館

主催：ニューアーク美術館

サンフランシスコ会場：

会期：2019年2月8日-5月5日

会場：サンフランシスコ・アジア美術館

主催：サンフランシスコ・アジア美術館

シンシナティ会場：

会期：2019年6月28日-9月15日

会場：シンシナティ美術館

主催：シンシナティ美術館

【出展作品】(予定)

京都服飾文化研究財団 (KCI) 収蔵品の衣装類を中心に、絵画、きもの、浮世絵、染色型紙などを米国美術館から出展します。

ニュージャージー会場:

・ドレス、きものなど	51 点
・絵画 (ジェームズ・ティソ、W.M チェイス)	2 点
・浮世絵、染色型紙など	9 点
合計	62 点

サンフランシスコ会場:

・ドレス、きものなど	36 点
・絵画 (ジェームズ・ティソ、W.M チェイス)	2 点
・浮世絵、染色型紙など	3 点
合計	41 点

シンシナティ会場:

・ドレス、きものなど	59 点
・絵画 (ジェームズ・ティソ、W.M. チェイス、リチャード・ミラー)	3 点
合計	62 点

出展作家 (50 音順)

ドレス類 19 世紀後期-1920 年代

ウォルト、ヴィオネ、エイミー・リンカー、シャネル、ターナー、ドゥイエ、ドゥーセ、ペロー社、ポワレ、ミス・リリー、モリヌー、ルシール、ルフ、E.L. メイヤー

ドレス類 現代

アレクサンダー・マックイーン (サラ・バートン)、132.5 イッセイ・ミヤケ、
イッセイ・ミヤケ (宮前義之)、イッセイ・ミヤケ・メン (高橋悠介)、イリス・ヴァン・ヘルペン、
グッチ (トム・フォード)、クリスチャン・ディオール (ジョン・ガリアーノ)、クリスチャン・ルブタン、
コム・デ・ギャルソン (川久保玲)、J. C. ド・カステルバジャック、
ジュンヤ・ワタナベ・コム・デ・ギャルソン、ジョン・ガリアーノ、ネ・ネット (高島一精)、
ハナエ・モリ、マウリツィオ・ガラランテ、ミタス+アンリアレイジ (森永邦彦)、
ラコステ・ライブ (大矢寛朗)、ラフ・シモンズ、ルディ・ガーンライヒ、
ロエベ (ジョナサン・ウィリアム・アンダーソン)、ロシヤス (アレッサンドロ・デラクア)、
山脇敏子、ヨウジ・ヤマモト、他

絵画 ウィリアム・メリット・チェイス、ジェームズ・ティソ、リチャード・ミラー
浮世絵など 勝川春潮、葛飾北斎、菊川英山、鈴木春信、鳥居清長

〔展覧会構成〕

1. Prologue: Kimono in Paintings

19 世紀後半、ジャポニズムを背景に、欧米の画家たちは、新たなテーマとして＜日本＞に注目しました。その一つ、きものは、流行の＜日本＞を端的に表象するものとして多くの絵画の中に登場しました。きものは日本娘に扮する手立てとして、あるいは美しい飾り布として、またおしゃれな部屋着として、様々な形で画家たちの作品の中に見ることができます。

ここでは、描かれたきものとして、欧米の画家による絵画作品を展示します。さらに、きものが欧米の女性たちに、おしゃれな部屋着として取り入れられた初期の事例を展示します。

2. Japonism in Fashion

19 世紀後期、きものの人気が高まるにつれ、パリ・ファッションにきもの地で仕立てられた流行のコートやドレスが登場したのを手始めに、きものを思わせる柄のテキスタイルがリヨンで作られました。20 世紀初期になると、きもの風の打ち合わせやお引きずり、帯の効果など、浮世絵に見るようなきもの風フォルムのドレスやコートが流行します。第一次世界大戦を経た 1920 年代初め、活動性や機能性が重要視され、女性服が現代化へ向かったとき、マドレーヌ・ヴィオネはきものからヒントを得て、ゆらみと平面性を特徴とする直線裁断による新しい西欧服を作り、流行を牽引しました。

このセクションでは、パリ・ファッションときものとの親密な関係性を、ウォルト、ポワレ、シャネル、ヴィオネなど、19 世紀後期-1920 年代を代表するオートクチュール作品で検証します。

3. Kimono in Contemporary Fashion

きものは、第二次大戦後日常の服ではなくなりましたが、きもの文化の伝統は生き続けました。1965 年、アメリカで高い評価を得た森英恵の作品は、日本の上質な絹や伝統の風雅な模様を西洋の服に巧みに融合させたものでした。現在もきものは、様々なアイディアをファッションに与えています。豪華な金襴、精緻な友禅染やしぼり、あるいはより素朴な型染の布まで、日本の伝統的な染織技術が秘めている奥深さ。きものを着た時の優雅な仕草や独創的な形態。きものはファッションにとって、汲めども尽きぬイメージ源となっています。

このセクションでは、現代ファッションに登場するきものの影響を、染織技法、着装法、平面的な構成など、様々な側面から検証していきます。

4. Epilogue: Japan Pop

大衆社会となった 21 世紀、ファッションはすべての人のものとなりました。宮廷文化が支配した西洋とは異なり、江戸時代の日本文化を実質的に主導したのは町人社会でした。そこで生れた浮世絵や黄表紙の大衆性は、現代のマンガやアニメと遠く繋がり、21 世紀の「東京ストリート・ファッション」のポップな感性とも無縁ではないでしょう。日本の伝統が作り出した庶民的な文化の系譜に連なるこの感性に、いま、世界は共鳴しています。

ここでは、マンガやアニメに影響を受けている作品など、2000 年代以降のファッションに見られる日本のポップなデザインの事例を検証します。

[展覧会カタログ]

題名: Kimono Refashioned: Japan's Impact on International Fashion

企画: 深井晃子(京都服飾文化研究財団 名誉キュレーター)

編集: 森嶋由紀(サンフランシスコ・アジア美術館 アシスタント・キュレーター)

新居理絵(京都服飾文化研究財団 キュレーター)

発行: サンフランシスコ・アジア美術館

言語: 英語

頁: 135 頁

発行: 2018 年 10 月

予定価格: \$24.95

内容:

論考

「The Kimono Meets the West」

深井晃子(京都服飾文化研究財団 名誉キュレーター)

「Wearing Japonism」

シンシア・アムネウス(シンシナティ美術館 チーフ・キュレーター)

「Occidentalisms in Japanese Dress」

キャサリン・アン・ポール(ニューアーク美術館 キュレーター)

「Deconstruction and Refashioning Japonism」

カリン・G・オーウェン(サンフランシスコ・アジア美術館 アシスタント・キュレーター)

「Japonism in Art and Fashion」

森嶋由紀(サンフランシスコ・アジア美術館 アシスタント・キュレーター)

「Why an Exhibition on Kimono Refashioned?」

新居理絵(京都服飾文化研究財団 キュレーター)

出展作品のイメージと作品解説(京都服飾文化研究財団、各所蔵館)

用語解説

[開催美術館について]

①ニューアーク美術館

Newark Museum

49 Washington St, Newark, NJ 07102, U.S.A.

www.newarkmuseum.org/

ニューヨークに隣接するニュージャージー州ニューアークにある同州最大の美術館。1909年にニューアーク公共図書館内に創設された展示室が、市民による美術館設立運動の高まりのなかで美術館として独立しました。1926年に現在の場所に移り、数度の拡張を経て現在に至っています。

もとニューアーク公共図書館司書で初代館長となったジョン・C・デйна(1856-1929)の指揮のもと、ニューアーク美術館は活動の当初から、日常生活における美的価値の重要性を認識してきました。設立当時、西洋美術偏重の傾向が強いなかでポスターや書籍などの印刷物、機械製品などを積極的に収集し、デザイン分野の企画展示を行う先駆的な美術館として名を馳せました。同時に、西洋にとどまらず、日本を含むアジア、アフリカなどのデザインに高い関心を寄せています。

②サンフランシスコ・アジア美術館

Asian Art Museum, San Francisco

200 Larkin St, San Francisco, CA 94102, U.S.A.

<http://www.asianart.org/>

サンフランシスコの中心部ユニオン・スクウェアから徒歩約15分の官公庁街に位置する、欧米最大級のアジア美術に特化した美術館のひとつ。館の歴史は、1959年、シカゴの実業家であり国際オリンピック委員会の第五代会長でもあったアベリー・ブランドージ(1887-1975)が蒐集したアジア美術コレクションをサンフランシスコ市に寄贈したことに始まります。1966年にゴールデン・ゲート・パーク内にアジア美術文化センターとして開館し、1973年に現在の名称に改称。2003年にイタリア人建築家ガエ・アウレンティによる館を得て現在の場所に再オープンしました。さらなる環境改善を目指して、現在拡張工事が進行中です。

収蔵品は約1万8千点。アジアの6千年以上の歴史から、絵画、彫刻、陶磁器、家具、テキスタイルなど、幅広い系統の作品を収蔵しています。多くのアジア系移民が暮らす同地において、日本を含むアジア美術を展覧する同館は「米国とアジアのかけ橋」としての役割をも担っています。

③シンシナティ美術館

Cincinnati Art Museum

953 Eden Park Dr, Cincinnati, OH 45202, U.S.A.

<http://www.cincinnatiartmuseum.org/>

米国中西部、オハイオ州の都市シンシナティの歴史は古く、18 世紀末に遡ります。19 世紀中期には全米最大の都市のひとつであり、「クイーン・シティ」と呼ばれてきました。シンシナティ美術館は、この街の中心部からほど近い高台の広大な公園、エデン・パーク内にあります。1886 年に開館し、「アート・パレス・オブ・ザ・ウェスト（西部の美の殿堂）」と評された、米国西部屈指の歴史と規模を誇る美術館として知られます。設立から 2003 年までに 4 度の増床が繰り返され、現在に至ります。

古代から現代まで 6 千年をまたぐ 10 万点の優品は、西洋美術から東洋美術、写真や工芸作品からアフリカン・アートまでに渡り、現在も幅広い視点から収集を続けています。また、19 世紀中期からの街の繁栄と共に隆盛した陶芸作家やドレス・メーカーの作品も多数収集し、陶芸作品はジャポニズムの強い影響をうかがわせ、衣装コレクションの充実ぶりは特筆されます。

[広報用素材のお問合わせ]

「Kimono Refashioned」展の広報用素材として、出展作品の図版データを準備しております。ご希望の方は、下記までご連絡ください。

[お問合わせ]

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

〒600-8864 京都市下京区御所ノ内南町103

Phone: (075)321-9221

Facsimile: (075)321-9219

e-mail: info@kci.or.jp

担当: 新居 (にい)

HP: <http://www.kci.or.jp>